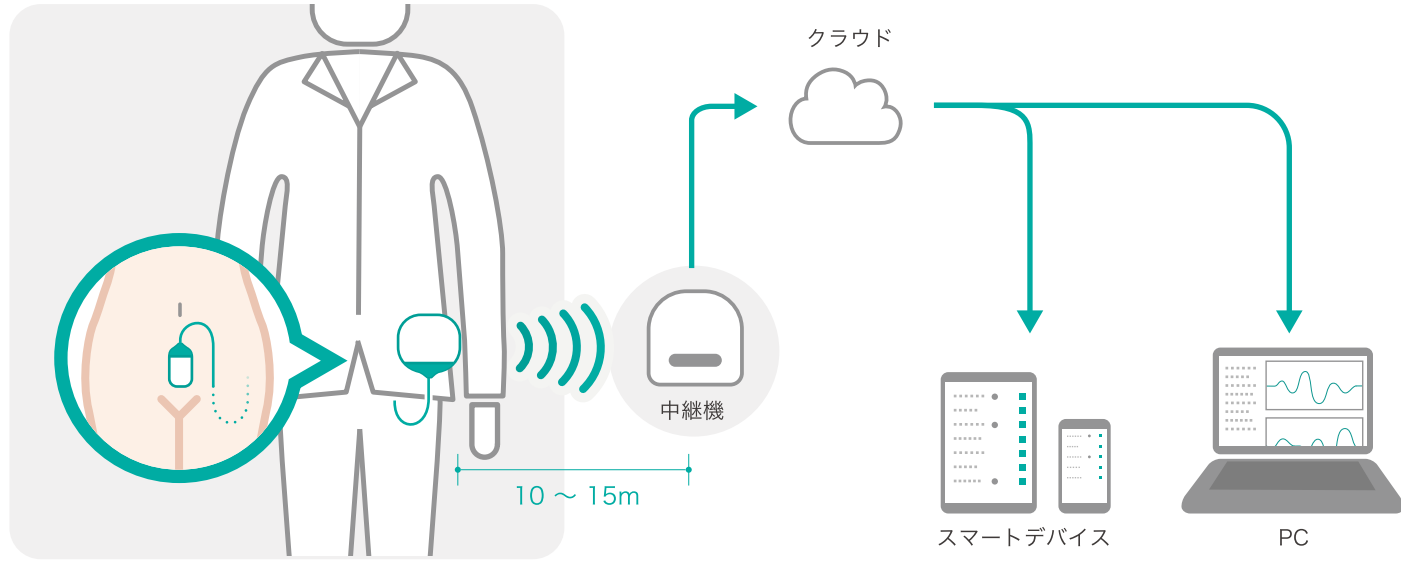


D free のサービス構成

DFree で取得した情報は暗号化され、中継機を経てクラウドサーバーで安全に保管されます。
 ※ご利用にはインターネット環境が必要です。インターネット環境がない場合は別途ご相談ください。



動作環境

Web ブラウザ (推奨)	Google Chrome 最新版
Web ブラウザ (動作確認済み)	[Windows] Google Chrome 最新版、Microsoft Edge 最新版、Internet Explorer 11 [macOS] Google Chrome 最新版
アプリ	iPhone / iPad (iOS 10.3 以降)

主な仕様

	大きさ (mm)	重さ	電源	動作時間
本体部	W83xD80xH33	73g	内蔵リチウムイオン電池	約 24 時間 (満充電には 4 時間必要です。)
センサー部	W62xD34xH12	18g		

CORPORATE PROFILE

商号	トリプル・ダブリュー・ジャパン株式会社
設立日	2015年2月18日
代表取締役	中西 敦士
所在地	〒100-0006 東京都千代田区有楽町 1-5-2 東宝ツインタワービル 3 階
海外拠点	アメリカ (カリフォルニア)・フランス (パリ)
事業概要	排泄の悩みや負担を軽減するソリューション『DFree』企画・開発・販売

NEWS

2018年 1月	日経優秀製品・サービス賞 日経 MJ 賞最優秀賞受賞
2017年 10月	厚生労働省「介護ロボットを活用した介護技術開発支援モデル事業」対象ロボットに認定
2017年 3月	経済産業省主催「ジャパン・ヘルスケアビジネスコンテスト 2017」でグランプリ受賞 神奈川県川崎市の認定する、福祉用具「かわさき基準」に採択
2017年 1月	Forbes JAPAN「NEXT RISING STAR AWARD」第3位に入賞 NEDO「企業間連携スタートアップに対する事業化支援助成金」に採択
2016年 11月	日経 TRENDY「暮らしを変えるスタートアップ商品 2016 健康&食部門」優秀賞受賞



排尿のタイミングを
お知らせします



D free で出来ること

機能
アラート

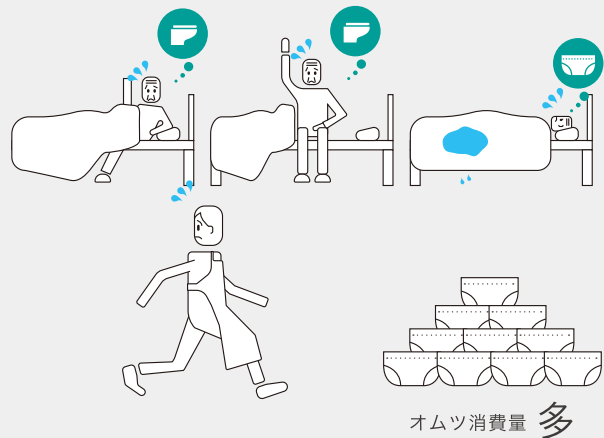
排尿のタイミングをお知らせします

> 適切なタイミングでのトイレ誘導による自立排泄をサポート

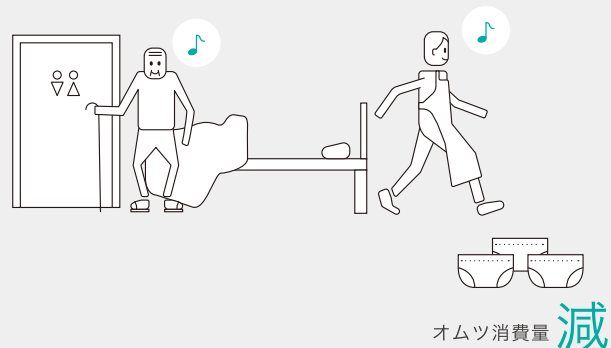
before

after

高齢者は様々な要因により日常的に排尿の不安を抱えて生活されています。

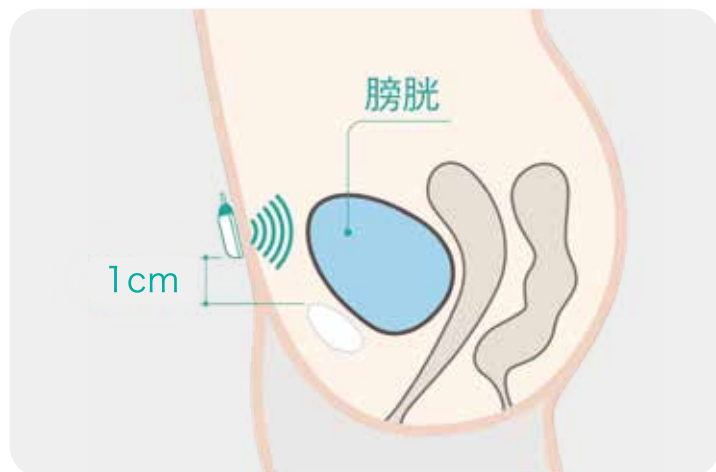


DFree を使用することで適切なタイミングでトイレ誘導ができるので自立排泄、トイレでの排尿をサポートします。その結果、高齢者の不安を和らげ、オムツなどの消費財の削減にもつながります。



D free の仕組み

DFree は超音波センサーで膀胱の変化を捉え、排尿前後のタイミングを計ります。膀胱は恥骨の上に乗るように位置しているので、DFree を恥骨の上端から1 cm の位置に装着します。



安心安全な超音波を利用

DFree は、エコー診断にも用いられている体に影響がない超音波を利用し体内の変化をとらえます。

Web 経由でスマートデバイスやパソコンと連携

排尿前後のタイミングをタブレットやスマートフォンに通知します。データは随時記録され、排尿感覚の把握に役立ちます。

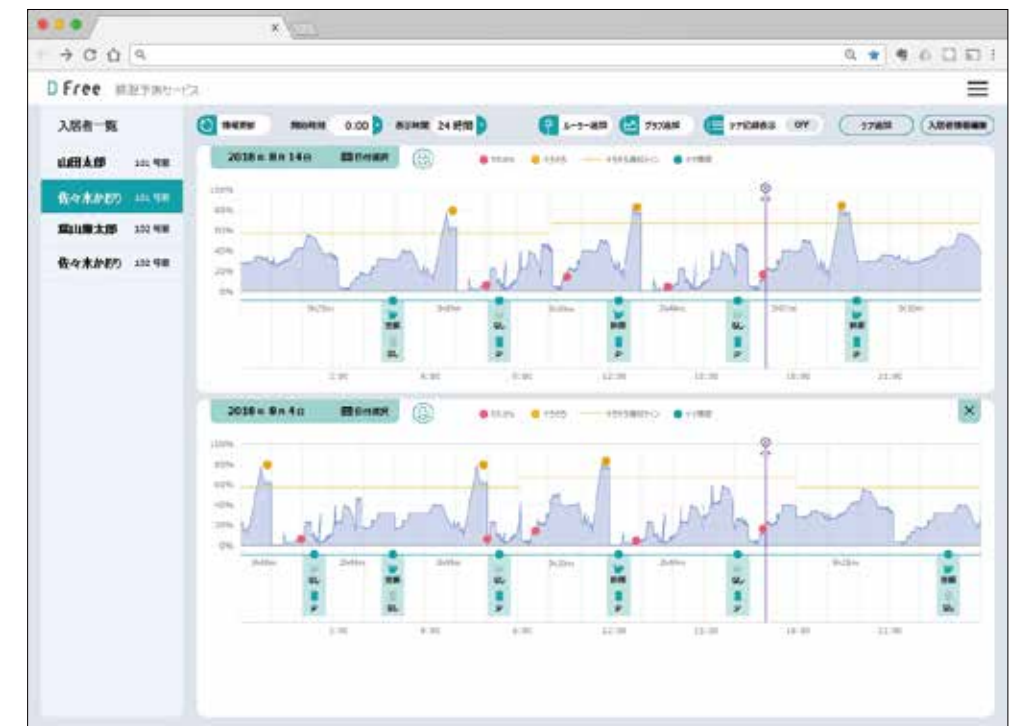


D free app 機能

iOS アプリの画面



Web ブラウザ (PC) の画面



① 各種通知機能でお知らせ

排尿前後のタイミングはもちろん、センサーの通信状況や本体の電池残量など、お手持ちのスマートデバイスにお知らせします。

② 排尿のタイミングをグラフで見える化

膀胱の変化がグラフで表示されるので、個々の排尿パターンを直観的に確認できます。

③ ケアの履歴をグラフと一緒に表示

記録したケアの履歴をグラフ上に表示することで、過去の振り返りが簡単にできます。

D free ユーザーの声

(特別養護老人ホーム 50 床 平均要介護度 4.09)

「経験や勘に頼らない排尿ケアをしたい」という職員の声

導入のきっかけ

効果① 職員の介護の質やケア技術が向上

「過去」や「今」の尿の情報を得られたことで、「利用者のために何ができるか」を考えられるようになった。

効果② 利用者の QOL 向上 ADL が改善

尿漏れの防止が膀胱機能の改善にもよい影響を与えたようで、夜間の安眠や日中の活動範囲が広がるといった効果があった。

効果③ 疾患リスクが減少し、施設の稼働率が上昇

尿漏れ後の早期介入が感染症や褥瘡予防につながり、入院が減ることで結果的に施設の稼働率が上がった。

導入の効果

「尿データ」を活用し、「考えるケア」を実践できていることに導入の意味を実感

施設長の声

尿漏れを減らすことで関連経費を削減し、夜間の職員の負担も軽減できるのではないかと期待したが、オムツのサイズを小さくすることはできても、完全に外すことは現実的に中々難しい。

それよりも、「職員の介護の質」と、「利用者の生活の質」の向上に、より大きな効果を実感している。また IT 機器を使って排泄に取り組むことで TV や新聞などでも施設の取り組みを発信する機会も増え、職員のモチベーションも上がっている。